



さいたま市立高砂小学校

施設のあり方検討会通信



Vol.5
令和7年6月

大イチョウ、大ケヤキについて

1 樹木医の診断結果について、報告がありました

はじめに、樹木医による診断結果と移植の適否について、教育委員会より報告がありました。報告によると、樹木医より「大イチョウ、大ケヤキともに樹木の状態は良好だが、移植は困難である」との見解が示されたとのことでした。移植が困難な主な理由は、以下の2点です。

- ①大ケヤキの場合は全体の約3/4、大イチョウでは約1/2以上の大枝を切り詰める必要があり、切り詰めによる樹勢の衰退が懸念され、回復が非常に困難であること。
- ②幹周から算出される根鉢（根と土が一体の部分）の大きさは3～5mと大きく、根鉢の作成が困難であるとともに、鉢割れの懸念もあること。

以上を踏まえ、教育委員会からは、「大ケヤキは、建物の配置計画に上伐採の必要がある。また、大イチョウは残置できるよう設計業務を進めるが、残置した場合は、校庭のトラックに木が隣接する等、教育環境への一定の影響が懸念される。」との見解が示されました。



本校の大イチョウ

2 大イチョウと大ケヤキの今後の方向性について協議しました

大イチョウおよび大ケヤキの移植が困難である現状を踏まえ、今後の対応方針について協議を行いました。

検討委員からは、「高砂小にとって大イチョウは特別な木だが、これから入学する子たちにとってどうなのかを考える必要がある」、「校庭を広く活用するために、敷地内の別の場所に移植できないか」、「枝や根を生かして既存樹から苗木を作り、新たに植樹し直して、次の100年を見守ってもらうのはどうか」、「校庭の広さ等を確保するために伐採をするのであれば、苗木等を作り植樹すると同時に、伐採した木材を活用してレリーフを作成し、新しい校舎に設置したり、ベンチやイス等に活用して残すのはどうか」といった意見が出ました。

検討会での意見を教育委員会に伝え、今後の工事の状況と合わせ、対応については検討を重ねていくことになりました。

3 編集後記

今回も「子どもにとって何が大切か」の視点を大切に、大イチョウ、大ケヤキへの対応について熱心な協議が行われました。検討会での意見を踏まえ、既存樹の活用については、学校と教育委員会とで引き続き検討を進めてまいります。本検討会は、次回が最後となる予定です。最後までよろしくお願いします。

